

「社会貢献」領域 中間成果

社会貢献の成果と今後の展開

日本福祉大学では、開学以来一貫して、地域と社会に貢献するために教職員および学生が様々な活動に取り組んできました。

たとえば、半田キャンパス内に設置されている生涯学習センターは、キャンパス開設以来 20 年以上にわたって、半田市市民の生涯学習活動に大きな貢献を果たしてきましたし、地域活動に中心的な役割を果たしてきた教職員も少なくありません。また、学生にサークルの中には長期にわたって地域の子どもや障がい者の支援を行ってきたサークルもあります。

COC 事業の枠組みの中では、教育・研究とならぶ 3 つの柱の一つとして社会貢献が位置付けられていますが、本来、教育や研究と切り離されて社会貢献活動が存在するわけではなく、教育や研究を含む大学の諸事業全体の中に、社会貢献的な要素が含まれてきました。その蓄積の上で COC 事業に取り組んできたことにより、連携自治体のみならず、地域で課題解決に取り組んでおられる市民や企業、団体から、大学の資源を活用したい場合に、以前にまして大学に対してアプローチがしやすくなったとの声をいただいています。

今後は、日本福祉大学における諸事業の中で社会貢献的な側面を常に意識しつつ、教育や研究とさらに連携を深め、そこから、新たな教育や研究につながり、好循環を生み出すことが大切だと考えます。

地域連携推進機構長・
国際福祉開発学部 教授

千頭 聡

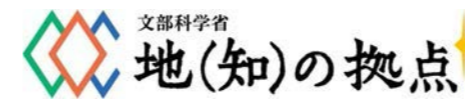
Satoshi CHIKAMI

概要

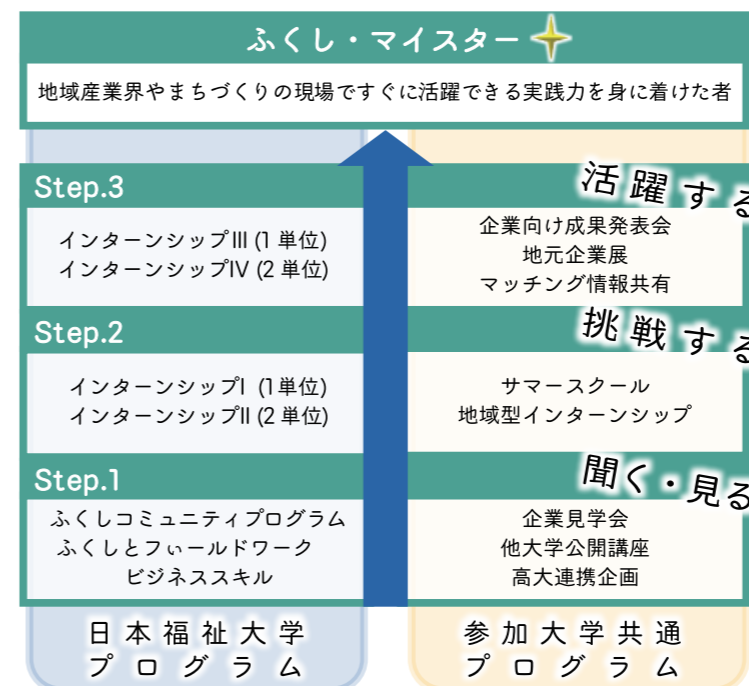
大学 × 産業界 × 自治体が協働して 岐阜県への就職をサポート

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)とは

地方の大学群と、地域の自治体・企業やNPO、民間団体等が協働し、地域産業を自ら生み出す人材など地域を担う人材育成の推進を目的としています。



日本福祉大学は、平成 27 年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下、COC+）」に採択された岐阜大学の事業「岐阜でステップ × 岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」に、岐阜大学・中部学院大学・中部大学・名古屋学院大学と連携して参加しています。



現場ですぐに活躍できる 実践力を身につけた 「ふくし・マイスター+」を養成

日本福祉大学の COC+プログラムは、実践を通じて地域創生に必要な力を養成していきます。各ステップを踏んだ学生は、地域性を理解し、地域産業界やまちづくりの現場ですぐに活躍できる実践力を身につけている証明として「ふくし・マイスター+（プラス）」の称号を得ることができます。この称号を得ることで、地域で働く際に即戦力を示せる大きなポイントになります。

教育

参加大学で学び合う共通プログラム

サマースクール



参加大学共有プログラムのサマースクールは、COC+ 参加大学の学生が一堂に会し、地元企業や自治体、その地域を支えている方々と一緒に、地域の将来を考えていきます。フィールドとなる地域の現状や特徴を、自らの目で見、耳で聴き、能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げることを目的としています。

2016年のフィールドは岐阜県の東濃地域。恵那市、中津川市、多治見市の3コースに分かれて、5大学から集まった初めて会う学生同士でチームを作り、たくさんの意見を交わしながら地域の未来に向けた企画提案をまとめていきました。

<参加学生の声>

初対面の人とチームを作って課題を達成する経験は初めてでしたが、自分から周りに関わって、課題達成に向けて頑張っていけば十分通用すると自信ができました。周りとかかわる中で相手の良さや強みを見つけて、引き出してチームを作っていくことが得意だと気づきました。

<担当教員のコメント>

地域成長につながる重要な地域課題を学生が意識したことが大きな成果でした。それだけに、提案の中で、「その地域だからこそ」の部分が今後の改善点でした。「魅力を知る」という、シンプルで難しい問題にたどり着いた学生の今後の成長に期待したいと思っています。

企業見学会

地元企業との接点を持つことで、大学での学びと地域や地元産業・企業とのつながりを深く認識するとともに、学生自身のキャリア形成意識の向上を図ることを目的としています。2016年度は6日間計12箇所の企業を訪問し、本学から11名の学生が参加しました。



成果報告会

今年度各大学の学生が取り組んだCOC+の活動内容を関係者の方々に報告し、活動を広く周知する目的でおこなわれています。本学からは国際福祉開発学部の町野紗希衣さんが、夏に参加した飛騨地域での農業体験プログラム「ワーキングホリデー in 飛騨高山」について発表しました。



教育

日本福祉大学生で学び合う本学独自プログラム

卒業生インタビュー



卒業生インタビューでは、岐阜県で活躍する本学の卒業生の話を通じて、地元に戻って働くことの意義や意味に触れながら今後の自身のキャリアプランについて考えていきました。岐阜県内他分野の14事業所、計16名にご協力いただきました。

<参加学生の声>

働きたいという想いがより強くなりました。同じ岐阜出身で同じ大学に通っていた先輩とお話し、自身が働く姿を想像できるようになりました。仕事をするきっかけや、その仕事のやりがいを知り、自分がやりたい仕事はなんなのかを見つめ直すきっかけになりました。

<参加学生の声>

社会で働く方と仕事について色々なお話することは初めてで貴重な体験でした。地元で働くことの良さや、多くの人と会って話をする仕事に興味が出てきました。また、今後、インターンシップなどに参加してみたいと思います。

福祉現場見学会

地域包括ケアを実践されている和光会グループを訪問し、福祉現場の体験ツアーを行いました。現場で活躍している職員の方の生の声を聴き、自分の目で現場を見ることで、これまで大学で学んできたことが線のようにつながり、体感的に福祉の仕事を理解することができました。



学生の“やってみよう”を後押し

“スクールソーシャルワーカーについて知りたい”との希望をうけ、子ども家庭支援センター「麦の穂」で相談員をされている卒業生の石田公一さんに、社会福祉学部の原奏恵さんとお話を伺いに行きました。また、児童養護施設の訪問や、記事の書き方講座、誌面デザインの講座、写真の撮り方講座も開催しました。岐阜県で活動したい学生の声を後押ししています。



ひろがる岐阜県の輪・活動の輪

岐阜県人会

岐阜出身学生のつながりや交流を深めるために、岐阜県人会を発足。2016年度は美浜キャンパスで3回の交流会を行い、そこから卒業生インタビューなどの他の活動につながりました。2017年度は、登録者も40名以上になり、さらなる活動が動き出しています。



事業広報

COC+では、事業広報のために毎月1回広報誌「COC+通信」を発行しています。また、活動の状況をリアルタイムでお伝えするブログ「COC+WEB通信」、イベントの案内をお届けするメールマガジン「GIFUTO」など複数のツールを利用して情報を発信しています。



COC+WEB通信



岐阜キャリア相談コーナー

東海キャンパス <キャリア支援室内>

- 受付：火・水・木曜日 10:00～18:00
※キャンパス閉鎖期間除く
- 電話：0562-39-3811
- 担当：就業支援コーディネータ 星野

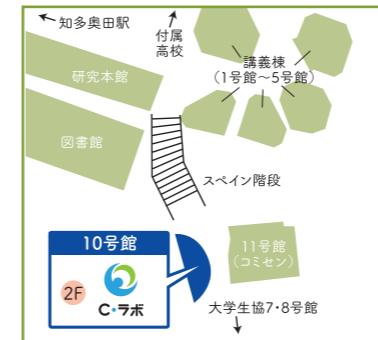


美浜キャンパス <サービスラーニングセンター内>

- 受付：月～金曜日 10:00～17:00
※キャンパス閉鎖期間除く
- 電話：0569-87-2321
- 担当：就業支援コーディネータ 小西

※2017年度現在

地域連携拠点  C・ラボ に、ぜひお越しください。



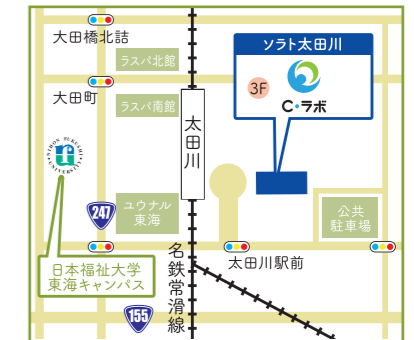
Cラボ 美浜

- <美浜キャンパス10号館 2階>
- 電話：0569-87-2430
- FAX：0569-87-2292
- 開室：月～金曜 ※祝日除く
9:30～11:00 12:30～17:00
- 担当：地域連携アドバイザー 廣澤



Cラボ 半田

- <クラシティ 3階>
- 電話(直通)：080-2629-4150
- 開室：月～金曜 ※祝日除く
9:30～17:30
- 担当：地域連携コーディネータ 池脇



Cラボ 東海

- <ソラト太田川 3階>
- 電話(直通)：080-8979-7394
- 開室：月～金曜 ※祝日除く
10:00～13:00
- 担当：地域連携コーディネータ 村松

※2017年度現在

平成26年度採択 文部科学省 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)
中間成果報告書

編集 日本福祉大学COC事業推進本部

発行日 平成29年 9月 8日